

'99 京大農業セミ



News Letter

vol. 11

省農業で育ったみかんを

お届けします。

このみかんが育ったのは和歌山県海草郡下津町大窪にある省農業みかん園です。

みかん園は標高三百メートルの谷の上にあり、ここから紀伊水道や和歌浦そして和歌山市街を見渡せます。天気の良い日には、はるかかなたに淡路島を見ることがあります。このみかん園は一九七三年に雑木林を開墾してつくられました。

省農業みかん園を育ててい



仲田芳樹さん（みかん山にて）

和歌山のミカン園で松本武さん（この省農業みかん園の所有者、仲田さんは弟に当たる）の息子の悟さんがニッソールという殺虫剤をミカン園で散布したあとに中毒死する事故が発生した。事故後の経過は紙面の都合で割愛する。幾多の経過の後、松本さんと

母親の悦子さんは国と会社を相手取った裁判を十五年間に亘つて戦うことになる。すなわち、わが国の農業史上、忘れることができない「農業裁判」である。

ミカン農民であった松本さんの人生は大きく変わる。闘う農民として、裁判や支援集

松本武さんを偲ぶ

石田紀郎

- 1 松本武さんを偲ぶ
2 対談・省農業は行き当たりばつたり
4 「買つてはいけない」の功
5 遺伝子組み換え作物最近の情勢
- あ。雨にもならず、曇りの日がなあ。」と夏の曇天の日の多さがその理由です。昨年と異なり台風の被害を受けることがなかつたので、腐りみかんがほとんどありません。みかんはやや大粒です。「ちつと摘果の少ないみかん見てみなさい。

1999年防除暦

省農業みかん園 (0.5ha)
99.7.1 ジマンダイセン水和剤 500倍希釈 (殺菌剤) 4000kg
99.7.10,11 プリグロックス L1000倍希釈 (除草剤) 3000kg

い。小粒やで、数を減らしちゃう家の果実は大粒のみかんができるけども、摘果の量の少ない家のみかんは小粒や。小言葉の中に、夏の摘果の苦勞が見えてきます。

1999年12月6日

1999年12月6日



やつてたら失敗してたかもし
れんな。
仲田 そうかもわからん。
石田 まあ、行けるところまで行つたらええやつていう。
仲田 わしだつてあかんよう
にアウトになつてもうたらそ
ていう気だつたなあ。
石田 大きいこと掲げて、断
固やるぞと言うとね、そ
の先が、先が見えてるわけ
ちやうからさあ、まあ行き当
たりばつたりの人生かなあ。
仲田 お互いそうよ。わしも
行き当たりばつたりで、もう
あかんようになつた時にはま
たなんとか少し考え方よつ

やつてたら失敗してたかもし
れんな。
仲田 そうかもわからん。
石田 まあ、行けるところまで行つたらええやつていう。
仲田 わしだつてあかんよう
にアウトになつてもうたらそ
ていう気だつたなあ。
石田 大きいこと掲げて、断
固やるぞと言うとね、そ
の先が、先が見えてるわけ
ちやうからさあ、まあ行き当
たりばつたりの人生かなあ。
仲田 お互いそうよ。わしも
行き当たりばつたりで、もう
あかんようになつた時にはま
たなんとか少し考え方よつ

て、アウトになつてもうたら。
ヤノネでねえ、みかんの木枯
れてまうんで、全ぐのところ
はなあ。
石田 行き当たりばつたり
ちゅうのは、えーかもしれん
な。
——そうすると、きっと無農
薬つてやつてたら、たぶんヤ
ノネが一発目で出てきた時点
ですでおじやんになつてい
たかもしれませんねえ。

石田 無農薬ちゅう教条主義
的なやり方ちうて、省農薬
的ない行き当たりばつたりの
いう行き当たりばつたりの
表現するものとしてあつた
んかもしれんね

——省農薬つ
のはある意味で
は行き当たり
ばつたりつてこ
となんでしょう
か。先生の人生
そのものも、も
しかしたら省農
薬かもしれない
ですね。(笑)

石田 行き当たりばつたり
たりてな。
——ちゅうのはさ、それは何かつ
た。
仲田 そう、行き当たりばつ
たりばつたり。

会へと農作業の忙しさをやり
くりしながら出かける日々が
始まつた。一介のミカン農民
が国を、大資本を相手に闘い
を挑んだのであるから、社会
を相手にした闘いの日々
を過ごさざるを得ない。なぜ
なら、農業全体が農薬の大量
使用を前提としていた時代で
あるから、彼の主張は簡単に
受け入れられる社会状況では
なかつた。

「闘う農民」と文字で表す
と、松本さんの面影とはどう
してもかさならなくなる。集
会や会議で話す機会が多く
なつても、松本さんの語りは
「闘う農民」らしくないので
あつた。はつきりした口調の
その語りは、「闘争用語」や「左
翼用語」にはほど遠く、「和歌
山の日常語」で「和歌山のミカ
ン園の雰囲気」で、普通の「百
姓」の思いを伝えたいとの姿
勢で貫かれていた。そして、一
五年間の裁判は部分的勝利
(画期的和解)として終結し
た。今日では、「闘う」という
言葉は耳慣れない言葉となつ

てしまったようである。こん
な言葉はダサイとでも思われ
ているのであるうか。しかし、
松本さんを思い出すとき、私
には「闘う」という言葉がま
ず心をよぎる。

「あがら百姓は・・・」と語
り始める松本さんの中に、世
の中を変え、社会の在りよう
に異議申し立てて行く人の強
さを感じた。大上段から、過
激に、勇ましい言葉を羅列す
るのではなく、日々の暮らし
の中で感じる矛盾を、悲しみ
を、悔しさを、朴訥とした村
のことばで話す松本武さんの
立ち居振る舞いに引かれて、
省農薬みかん園という取り組
みに参加させてもらつた。そ
して、この一月一五日に他界
された。

「闘う」こととはこういう
ことだと指し示してくれた松
本さんという一人の「百姓」に
会えたことに感謝して、ご冥
福をお祈りし、今年もミカン
山通いを続けている。

(いしだのりお・アジアア
フリカ地域研究科教授)

これは省農薬みかん園を始め
た當時を振り返つた仲田芳樹
さんの言葉です。省農薬みか
ん園誕生当時は周囲の理解は
まだまだ低かつたようです。
まだまだ低かつたようです。
みかん作りのプロである仲田
さんといえども、農薬使用を
減らしてのみかん作りは初め
ての試みでした。そんな省農
薬みかん園に農薬ゼミは開園
当初から二〇年以上関わつて
きました。今回は省農薬みか
ん園が二〇年以上も続いたヒ
ケツを仲田芳樹さん(以下、仲
田)と農薬ゼミの生き字引、石
田紀郎先生(以下石田)に語つ

ていろいろ考えたし、なんと
なくそうなつていてな。
仲田 少しでも農薬減らした
らなあ。(農薬を減らした)作
り方してみたいつていうこと
やつたんやなあ、先生。それ
だつたらうち、ちようど(ミ
カンの苗木を)植えてから二・
三年たつたところ(注二)や

でいろいろ考えたし、なんと
なくそうなつていてな。
仲田 少しでも農薬減らした
らなあ。(農薬を減らした)作
り方してみたいつていうこと
やつたんやなあ、先生。それ
だつたらうち、ちようど(ミ
カンの苗木を)植えてから二・
三年たつたところ(注二)や

——開墾当初は普通のみかん
園になる予定だつたんですね。
そこを省農薬みかん園にする
ことになつた・・・
仲田 わしもどんだけもつ
けられれるもんかいなと思つ
たなあ。

(注二)一九七三年、省農薬
みかん園にみかんの苗木が植
えられた。

一九六七年七月一四日
に、仲田芳樹さんの甥に当
たる松本悟さんが農薬中毒
死する事故が起きた。一
九六九年五月、農薬ニッ
ソールを製造した日本曹達
株式会社とそれを許可した
国を相手取つて裁判が行わ
れた。原告は悟さんのご両
親である松本武さんと松本
エツ子さん。この裁判は一
九八四年まで続いた。

石田 七五・六年くらいかそ
れくらいの時からかなア。だ
けどもそういう面では(動機
が得てくるまでには)裁判
も影響してたし、僕自身もな
んかこう(大学だけにこもつ
た学者生活ではなく、現場で
の)実践をやつてみたいし、仲
田さんも裁判(注一)のなか
でいろいろ考えたし、なんと
なくそうなつていてな。
仲田 少しでも農薬減らした
らなあ。(農薬を減らした)作
り方してみたいつていうこと
やつたんやなあ、先生。それ
だつたらうち、ちようど(ミ
カンの苗木を)植えてから二・
三年たつたところ(注二)や

から、あそこでやつてみ
かつちゅうことになつたんだ
なあ。

対談・省農薬は行き当たりばつたり

(注二) 農薬裁判

一九九九年一月六日悟

——ちゅうと、方針なり指針が
あつてやることじやなくて、
その、その場に、その現場に
ね、直面したときに必死で知
恵を絞るちゅうことを含んで
るんやろな。
仲田 遭遇したときにな、全
知全能は絞り込むと。そういう
うことに当たつたときにな。
ヤノネで木枯れできたいうと
きにな、ヤノネコバチを入れ
みよかつて、長崎の試験場
からな、持つてきたつていう
のはそれが成功したわけや。
一番大きいわな。

——ヤノネとはヤノネコバチ
ガラムシのことです。この
仲田さんの言葉にもあるよ
うに、みかんの葉や果実に
つく害虫で、大発生すると
みかんの木は枯死します。
果実に発生すると「ごまみ
かん」になります。省農薬
みかん園では一九八〇年に
大発生し、一九八一年には
枯死するみかんの樹も現れ
ました。ヤノネの大発生に
対して、ヤノネコバチを省
農薬みかん園に放しまし
の家にて)

い逆風が吹きはじめました。組み換え作物をめぐる将来像は一体どういうものなのでしょうか。九月二十日付の日経新聞では「生産増大が続く」「増産に歯止め」「急速に減少」の三つの可能性を挙げ、分析を加えた上でそれぞれの可能性を一五%、六〇%、二五%としています。しかし記事が発表された後にも情勢は変化してきており、急速に減少する可能性がより高くなつてきたように思えます。

これまでのところ組み換え作物は、害虫に食われにくく、除草剤耐性がある、収量が上がるなど、農業技術上、利点があるものがほとんどでした。しかし組み換え技術そのものは他にも様々な可能性があります。すでに血中の悪玉コレステロールを下げる働きのある高オレイン酸大豆が日本でも認可されていますが、このような消費者に直接メリットを訴える作物を開発して、企業は生き残りをかけてくる見通しです。しかしあつたん

組み換え作物に対する抵抗感が強く根付いてしまったあとで新製品が受け入れられるものか、遺伝子組み換え作物の将来像はにわかに流動的に

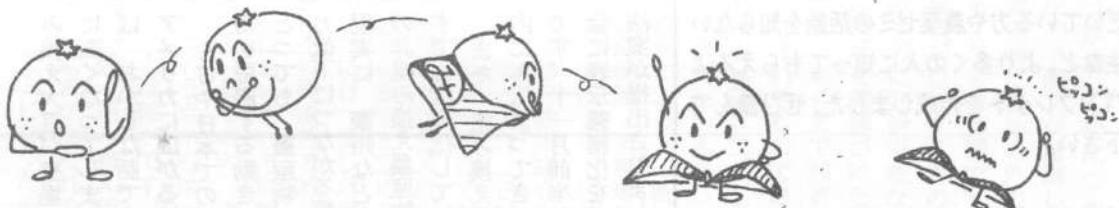
なつてきました。
(やまうちまなぶ・理修士)

編集後記

仲田さんと石田先生の対談を記事にする際に様々な人々にお世話になりました。農業ゼミOBである江成さん、西岡さんが参加してくださいましたおかげで、過去の省農業みかん園の様子や農業ゼミの活動の様子を知ることができました。藤岡さん、中川さんは対談企画・原稿作成のアドバイスをいただけました。山内さん、松田さん、大石高典には原稿執筆と訂正をしていただきました。最後に、自由にお酒を召し上がる時間での対談に割いてくださいました仲田芳樹さんと石田先生に感謝の意を申し上げます。(かこい
しょうた・理学部三回生)

みかんを長持ちさせるために

箱の中のみかんをいちど新聞紙の上で転がして、余分な水分を飛ばし、よく乾いたら箱の中に戻して、風通しのよいところで保管して下さい。また傷んだミカンがありましたら、見つけ次第すぐ取り除いて下さい。こうして頂くと痛みにくくなり、条件がよければ数週間保存できます。



農業ゼミニュースレター第11号

1999年12月6日 京大農業ゼミ発行

〒606-8502 京都市左京区北白川追分町

京都大学農学部 石田紀郎 気付

Tel/Fax : 075-753-6133

E-mail : kgrap@kais.kyoto-u.ac.jp

URL: <http://dicc.kais.kyoto-u.ac.jp/>

KGRAP/homepage.html

みかんや農業ゼミに対するご意見、ご批判、ご要望などがございましたら、どんどんお寄せ下さい。皆さまからのお声を、私達の活動の励みにして、これからも活動をしていきたいと思っております。

早わかり！

省農薬がわかるリーフレット

vol. 1

発行：京大農薬ゼミ

Tel&Fax 075-753-6133

70年代に問題とされてきた「急性毒性」による農薬事故は次第に減ってきました。しかし、「事故」という形で現れず、農薬の長期間使用が肝機能低下などに影響を及ぼす「慢性毒性」の問題は未だ解決されていません。この「慢性毒性」は目に見えないところで進行する、すぐには結果のない事柄です。環境ホルモンや遺伝子組み替え食品が農薬と関連して議論されますが、これらも同じ「見えない問題」なのです。

私たちは、こうした見えない・見えにくい諸問題を、そしておそらくは尽きることのない農薬に関する問題を考え、行動しています。



ねえ博士、私達って「省農薬ミカン」って呼ばれてますよね。どうしてわざわざ「省農薬」って付けるの？普通のお店で売ってるミカンと同じじゃないの？

みかんちゃんは違うなあって思ったことないかい？



うーん。私達って悲しいけどきれいじゃないですよね。ほこほこだし、お肌にしみもあるし。それに、大きさもバラバラで統率とれてないってかんじも。

そう、

それが「省農薬ミカン」の特徴だよ。



???

ははは、説明しよう。



登場人物紹介



みかんちゃん
好奇心旺盛な新人



Dr.のり
省農薬に詳しい
農学博士



今回のテーマ



農薬ゼミのミカンを

「省農薬ミカン」と呼ぶのはなぜ？

省農薬に込められた思い

「省農薬」とは文字どおり農薬をできるだけ省いた栽培法のことをいいます。 「完全無農薬だったら何も問題ないじゃない！」 そうですね。 それも理想のひとつです。

では、農薬をまったく使わない農家になったつもりで作物を育てている様子を想像しましょう。 作物が育つ土壤や気候はちょっと離れただけで変わります。 生育を阻む多種多様な病害虫にも対応しなくてはなりません。 収入を得るためににはたくさん作る必要があります。 無農薬にしたい。 でも、自分の労力と時間には限界がある。

理想と現実の狭間で、さて、どうした良いのでしょうか？ このことを農家のひととともに考え新しい技術に挑戦する、これが農薬ゼミが目指してきたことです。 そして、農薬を省く可能性を模索し続ける姿勢を意味する言葉が「省農薬」なのです。 農作物の生産環境は、農家によって違いますから、各生産者がそれぞれのやり方で農薬を省いていけたら・・・ こんな気持ちが「省農薬」に込められています。「省農薬」「減農薬」は「無農薬」に劣ると思ってる方、ちょっとと考え直して見ませんか？



豆知識：農薬を減らすのは？

農薬は人間の薬と同じで、期待通りに作用すれば「薬」、 いらん悪さをすると「毒」になります。 この毒性には様々な種類があり、 大きく分けても急性毒性、 亜急性毒性、 慢性毒性、 発ガン性、 繁殖性に及ぼす影響及び催奇形性、 変異原性と多岐に渡ります。 市販されている農薬はこれらの毒性試験を一応パスしています。 しかし、 環境中に放出された農薬や、 その代謝産物が人間や他の生物の生活に悪影響を及ぼしている可能性は否定しきれない面があります。 また、 いくつかの化合物が、 これまでの常識を越える低濃度で催奇形性を示すことが知られるようになりました。 今後新たな毒性のひとつとしてとらえるべきです。

省農薬のあゆみ

- 1966 日本曹達(株)がニッソールの販売開始
- 1967 松本悟さんが農薬（ニッソール）中毒死
- 1969 悟さんの両親が国と農薬会社を提訴（ニッソール訴訟）
- 1974 仲田芳樹さんが省農薬ミカン園を開園
- 1978 農薬ゼミが省農薬ミカン園で調査を開始
- 1980 省農薬ミカン園に寄生蜂を導入（ルビロウ）
- 1985 ニッソール訴訟、 和解成立（大阪高裁）
「悟の家」（和解金で立てた作業小屋）完成
- 1987 省農薬ミカン園に寄生蜂を導入（ヤノネ）
- 1996 報告書『省農薬ミカン栽培の可能性～病虫害被害調査と経営分析～』出版

省農薬みかん園のはじまり

1967 年の夏、 17 才の松本悟さんが農薬（ニッソール）散布後、 急性農薬中毒にかかり若い命を落としました。 悟さんのご両親は、 農薬会社（日本曹達株式会社）と厚生省、 農林省（現農水省）を相手取り裁判を起こしました。 この裁判の過程で、 農薬ゼミには悟さんの叔父にあたる、 現在の省農薬みかん園経営者、 仲田芳樹さんとの運命の出会いがありました。

仲田さんはこの事件を契機に「新しいみかん園を無農薬にしたい」と考えました。 しかし、 技術的にも経済的にも、 現実は甘くありませんでした。 そこで、 最小限の農薬しか使用しない「省農薬栽培」を始めたのです。 それから 20 年間、 農薬ゼミは仲田さんと「省農薬ミカン栽培」の旅を一緒に続けてきました。

仲田さんに限らず、 みんながそれぞれの条件の中でできることから始めていくこと。 これは私達農薬ゼミの大切な原則です。



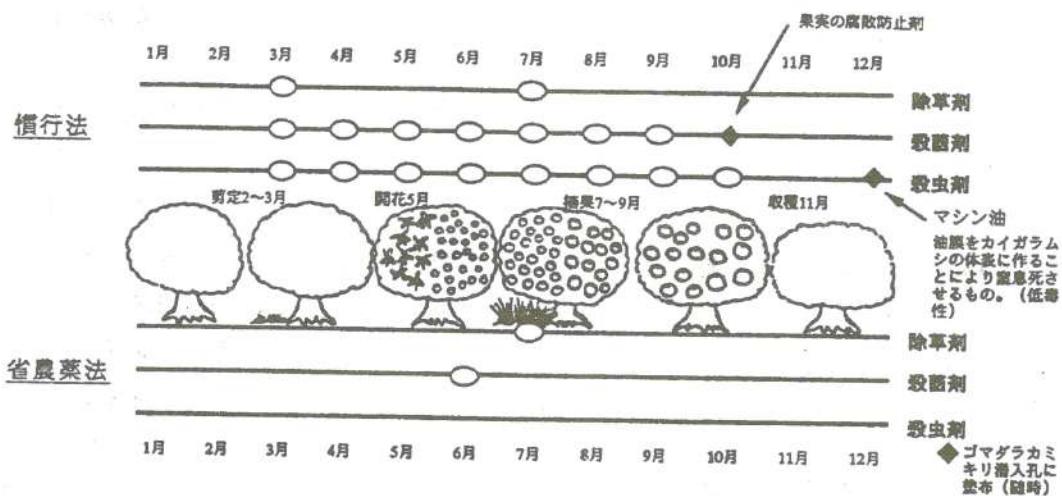


のぞいてみよう！

「省農薬ミカン」と「普通のミカン」の育て方

ミカンを育てる上で必要な4つの仕事が、肥料などの土の世話をすること、剪定・摘果などの木の世話をすること、雑草から木を守ること、病害虫からミカンを守ることです。

ミカンをおいしくするための土や木の世話は、普通のミカン園と省農薬ミカン園ではほとんど一緒で、農家の人の知恵と経験次第です。雑草や病害虫からミカンを守るには農薬を使います。この農薬の使用を最低限度に抑えてできあがったのが省農薬ミカンです。一年間の農薬散布回数が普通のミカン園とどれだけ違うのか下の図でミカンの生長にあわせて比較してみてください。違いは一目で分かりますね。



えっ、農薬をまかなきゃ、病害虫にやられてミカンが無くならないか、ですか？
この続きは、次のお話で。

いかがでしたか？今回は“省農薬という考え方”でまとめました。
次回は省農薬みかん園ができてから今日までの園内の様子を、農薬ゼミが20年に渡って行った病害虫や収量の調査結果から分かりやすくお伝えします。お楽しみに。

このリーフレットを毎号集めると、省農薬の早わかり小冊子になります。